

自己評価表による身体拘束・虐待防止への取組み

～思いやりのある施設を目指して～

自己評価表改訂のきっかけ

自己評価表の実施による気付き

身体拘束・虐待への再認識

キーワードについては
必ず3つ記入の事！！

社会福祉法人夕秀会 特別養護老人ホーム百花苑

発表者
(研究者)

介護職員 服部龍司

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人 夕秀会	経営主体	社会福祉法人 夕秀会
開設年月日	平成16年3月1日	所在市町村	北海道釧路市
市町村人口	181,093 人	65歳以上人口 (高齢化率)	42,406 人 (高齢化率 20.99%)
利用者定員数	54 人	利用者平均年齢	84.9 歳
職員数	40 人	職員数内訳	介護職 30 名 看護職 4 名
併設施設・事業	(予防) 通所介護 20名/1日 小規模型通所介護		
施設のサービスの概要	◆特別養護老人ホーム(ユニット型個室)入所定員50床 ◆(予防)短期入所生活介護 4床 施設総定員54名(ユニット定員9名 6ユニット)		

発表の概要

①取り組んだ課題

当苑では、身体拘束・虐待にあたる行為の知識を深め、職員一人ひとりが日常介護の場面を振り返り確認と改善することを目的とした身体拘束・虐待防止“自己評価表”を導入・実施している。開始当初は、各職員の意識が高まり介護に取り組む姿勢の変化が徐々にみられていたが、一方で設問の表現が曖昧でその状況をイメージしづらく、設問数が多いことから、自己評価に対する煩雑さを感じているとの声も聞かれていた。

このままでは職員の意識が薄れ、「不適切なケア」が日常の介護場面で起ってしまう恐れがあると考え、『イメージしやすい設問』『項目数の見直し』により職員の煩雑さを軽減することに焦点を当てた自己評価表の改訂に取り組んだ。改訂内容と意識調査の結果に対する委員会での取り組みをここに報告す

②具体的な取り組み

- 1) 自己評価表の見直し・改訂(H23年4月～H24年3月)
- 2) 新自己評価表導入・実施・評価(H24年5月～H24年8月)
- 3) 自己評価表の実施と意識変化の調査(H24年5月～H25年5月)
- 4) 自己評価表の実施：身体拘束マニュアルの事前配布(H25年5月)

③活動の成果と評価

設問内容が類似しているものをまとめ、イメージが沸く様に見直した結果、改訂前の「曖昧な表現で分かりづらい」「内容が他の設問と重複している」「設問の意味が理解できずチェックできなかった」といった意見が聞かれなくなった。

自己評価を行なう際に自分自身が実施しているケアに置き換えることが可能となり、それを見つめながらチェック出来たと考えられる。又、日々の介護場面で職員の意識・解釈の違いにより見過ごされていた「不適切なケア」または「非意図的な虐待」の可能性について考えるきっかけが出来た。

同時に設問数が減少した事で実施時間が短縮でき、自己評価に取り組む煩雑さを軽減することができたと思う。

④今後の課題

今後委員会では、自己評価表と意識調査を定期的実施し、職員が抱える課題を丁寧に分析し、改善に向けて取り組む必要がある。

それを積み重ねていくことで、ご入居者が思いを訴える前に感じる『気づき』を多く持ち、すぐに手を差し伸べることが「思いやりのある施設」と考え、目指していきたい。

⑤参考資料など